

令和7年度(2025年度) 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標	自信と誇りを持ち自らの未来を切り拓く生徒の育成
重点目標	(1)確かな学力の育成(自ら学ぶ力を高める) (2)生徒の主体的な成長・発達を「支える生徒指導」への転換 (3)授業力向上に向けた研究推進 (4)教育活動全体を通じた道徳教育の推進 (5)支え合い高め合う集団作りの推進 (6)特別支援教育の充実と合理的配慮の推進 (7)学校運営協議会やPTA、地域との連携に基づいた開かれた学校作りの推進

主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰ひとり取り残さない取り組み ③学校・家庭・地域の連携	・基礎的、基本的な知識、技能を習得させる。 ・授業力の向上と授業改善を目指した校内委員会を実施する。 ・全国学力学習状況調査等の資料を活用する。 ・小中連携を推進する。 ・ポジティブ行動支援を推進する。	・全教員が指導案を作成し、生徒が主体的に学ぶ場を設定した提案授業を行う。 ・タブレットを活用して小テストやドリル学習などを繰り返し行い、基礎学力の定着に努めて、よりわかりやすい授業を展開する。 ・週末課題を事前に知らせることで、計画的に家庭学習に取り組む習慣を身につけさせる。 ・学力保障の場として、長期休暇中や定期テスト前の学習会を実施する。 ・教師がポジティブ行動支援を意識し、生徒に自分の意見をまとめさせたり、発表させたりする機会を増やす。(ペア、4人班等場面設定の工夫) ・全国学力学習状況調査の分析結果を学校通信に掲載する。 ・校区内の小学校と互いの授業を参観する。	・生徒アンケートにおいて、「授業では学習内容が理解できて楽しい」の評価を80.0%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「自分は授業で積極的に発表しようとしている」の評価を50.0%以上にする。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は学力の向上に取り組んでいる」の評価を85.0%以上にする。	B	・生徒アンケートにおいて、「授業では学習内容が理解できて楽しい」の評価はおおむね80.0%だった。 ・生徒アンケートにおいて、「自分は授業で積極的に発表しようとしている」の評価は50.0%を下回った。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は学力の向上に取り組んでいる」の評価は85.0%以上だった。 これらのことから、生徒は授業の内容を理解できて楽しい、保護者は学力向上への取り組みが充実していると捉えているが、生徒は積極的に発表できていないことがわかる。また、教師アンケートの1～3の質問項目の回答から、教師は自分の意見を述べる場を設けている。しかし生徒は、挙手をすることを発表と考え、意見を表現することについて前向きに捉えられていないと思われる。	間違えても良い、誰でも発表しやすいという雰囲気を作る。そのために、発表前に友達と考えを共有する場面を設けるなどし、発表までのステップをつくる。 また、自分の意見を述べやすいような発問を、教師が心がける。 発表という言葉は、挙手をして全体で意見を述べることと捉えている可能性があるが、ペア学習や、4人班で意見を述べることも、大切な意見発表の方法である。このように教師側が機会を積極的に設けることで、現状の改善につながると思われる。	・ペアや班で意見交換する場面を1時間の授業の中で、必ず1回以上設定できればと思います。 ・取り組み全般について評価します。「授業で積極的に発表する」という点において、生徒の中にはクラス内での発表を苦手に思っている生徒もいると思われる。そのような生徒には、個別に対応し、本人の意見を聞き出し発表させることも、誰一人取り残さない取り組みに通じると考える。既に取り組んでいるならば、更に評価します。 ・生徒が落ち着いており、一人ひとりを大切に誰一人取り残さない授業をされていると感じました。 ・生徒アンケート「授業は・・・」と保護者アンケートにおいては目標数値を達成しており評価できる。生徒アンケート「自分は・・・」目標数値を下回り、新たな改善策、具体策を立てる必要があると思います。 ・ポジティブ行動支援の具体的な取り入れ方を知りたいです。小学校との相互参観のフィードバックがされているのか知りたいです。可能であれば発表の場に、地域や保護者が参加できればと思います。
知・徳・体の調和のし	新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	・タブレットなどICT機器を適切に使用する。 ・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・学習の手引き等を活用し、適切に評価を行う。 ・読書活動を充実させ、語彙力を向上させる。	・授業の中でスクールタクトを活用し、情報や言語を視覚化する機会を効果的に設ける。 ・言語活動(スピーチ、グループワーク等)の機会を増やし、情報を活用しつつ表現力を高める。 ・調べた情報の取捨選択、正誤判断等を行い、判断力、思考力を育む。 ・ICT機器の研修(情報リテラシー等)を行い、教師がICT機器を効果的に使えるように促す。	・職員アンケートにおいて、「ICT機器を積極的に活用した授業作りに努めている」の評価を90.0%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「様々な場面を通して、表現力を高める機会をつくっている」の評価を90.0%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「授業中タブレットなどの機器を使うことで、授業がわかりやすくなった」の評価を90%にする。	B	・今年度は64.7%の職員が「ICT機器を積極的に活用した授業作りに努めている」と回答し、前年度71.0%を下回った。ICTの活用が一般化されたことにより、個人個人のハードルの認識が異なっている可能性も考えられる。 ・86.7%の生徒が、「様々な場面を通して、表現力を高める機会をつくっている」と回答している。昨年度よりも1ポイント上昇しているが、目標達成とはなっていない。 ・86.0%の生徒が、「授業中タブレットなどの機器を使うことで、授業がわかりやすくなった」と回答している。	・引き続き、研修や研究授業において、ICTの活用事例を共有していく。 ・ICT機器の活用の基準を明記して、全職員が同じ基準で回答できるようにする。 ・表現力については、毎年評価が安定しているため、今後も言語活動の機会を増やしていく。 ・授業中のタブレット活用を継続、今後もわかりやすい授業につなげていく。	・ICT機器を活用し、表現力を高める取り組みが進んでいると感じる。 ・ICT機器を使つての授業は、デジタル世代の生徒たちに好評なことは相対的に感じられる。引き続き学校の取り組みに期待します。 ・教職員のICTの対応はどこの学校でも課題です。 ・ICTの活用が定着したことで達成数値の変動があると思います。生徒アンケート「表現力・・・」は高い数値で評価できます。「生徒が積極的に・・・」の結果から、表現力は高まっているが、積極的な発表との乖離に改善策の糸口があるように思います。 ・情報リテラシーは大人より子どもがよくわかってきていると思います。 ・90%目標は高すぎるのではと思います。

令和7年度(2025年度) 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標	自信と誇りを持ち自らの未来を切り拓く生徒の育成
重点目標	(1)確かな学力の育成(自ら学ぶ力を高める) (2)生徒の主体的な成長・発達を「支える生徒指導」への転換 (3)授業力向上に向けた研究推進 (4)教育活動全体を通じた道徳教育の推進 (5)支え合い高め合う集団作りの推進 (6)特別支援教育の充実と合理的配慮の推進 (7)学校運営協議会やPTA、地域との連携に基づいた開かれた学校作りの推進

主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校教育	「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめとの未然防止、早期発見、早期対応に向けての取り組み ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	いじめ問題への対応力の向上に取り組む。 ・生徒との信頼関係を構築し、充実した学級経営を行う。 ・不登校、長欠生徒に対して、学校全体で組織的な対応を行う。 ・体育大会や文化祭、トライやる・ウィーク等の行事において、生徒に自信をつけさせる有効な機会として計画立案を行う。	・自己有用感や自己肯定感、自尊感情を高められるような取り組みを授業で実践するとともに、継続していじめに関する授業を道徳科で行う。 ・毎学期、教育相談週間を設け、生徒の声に耳を傾けたり、学校生活アンケートやいじめ調査アンケートを行ったりして、いじめの早期発見ができるよう実態把握を行う。 ・前期・後期にハイパーQUを実施し、学校生活における生徒の満足感や意欲、学校集団の状態等を確認する。 ・報告・連絡・相談体制を確立し、早期対応ができるように組織的に動く。 ・生徒指導委員会(週に1回)・いじめ防止対策委員会(学期に1回)・不登校対策委員会(月に1回)を必ず実施し、情報共有を行うとともに、生徒理解のための取り組みを行う。 ・行事検討委員会・体育大会実行委員会・文化祭実行委員会・トライやる推進委員会を実施し、生徒主体となる活動計画を立案するとともに、生徒の自主性を育成できるように方向づける。	・生徒アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他の人への思いやり、いじめを許さないことについて教えてもらっている」の評価を95%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「学校へ行くのが楽しい」の評価を85%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「学校行事に取り組む、達成感を感じることができた」の評価を90%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「先生は悩みや不安なことについて相談にのってくれる」の評価を90%以上で維持する。	B	・Q7「学校へ行くのが楽しい」という生徒の割合が昨年度より1.2ポイント下降し、目標の85%には到達しなかった。 ・Q8「学校行事に取り組む、達成感を感じることができた」という生徒の割合が88.3%となり、昨年度より3.8ポイント下降し、目標の90%には到達しなかった。 ・Q9「先生は悩みや不安なことについて相談に乗ってくれる」という生徒の割合が87.5%と昨年度より1ポイント上昇したが、目標の90%には到達しなかった。 以上の結果より、学校へ行くことが楽しく、学校行事などで達成感を感じることができるような指導の必要がある。今年度の職員と生徒との関係性については、昨年度に引き続き、一定の成果が見られた。	・現在の取り組みを継続し、いじめに関する授業を道徳科で行っていく。 ・職員間で報告、連絡、相談体制をさらに強化し、SSWやSCだけでなく、外部の関係機関とも連携して生徒一人ひとりの対応について考えていく。 ・学校生活アンケート、いじめ調査アンケートを行ったらすぐに聞き取りを行い、早期発見、早期対応ができるように迅速に行動を行う。 ・毎週の生徒指導委員会や毎月の不登校対策委員会、毎学期のいじめ防止対策委員会等で情報交換を密に行い、未然防止、早期発見、早期対応を丁寧に行えるようにしていく。 ・行事ごとに職員と生徒が連携し、日々の学校生活において生徒主体の活動を行い、生徒が充実感や達成感を感じ取れるようにする。	・現在の取り組みを継続し、成果を期待します。自尊感情を高めることについては、とても重要であり、自信や家族、その先には国を大切に思う気持ちにもつながると考えます。 ・この項目についても、誰一人残さないよう先生方のご尽力に期待します。 ・とても大切で、今後も継続して取り組んでほしいです。 ・組織的に生徒に対応されている成果と思います。 ・どの項目も目標達成には至っていないが、高水準であり評価できる。改善意識をもつことは大切であるが、達成目標数値が高いように感じます。 ・ハイパーQUでわかることを知りたいです。 ・いじめアンケートで書く子はいますか。 ・「学校が楽しい」「達成感」は思春期には90%は高すぎるのではと思います。
	「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の促進	・部活動のあり方を検討するとともに、指導の創意工夫及び改善に取り組む。 ・体育の授業を通して、運動やスポーツの習慣化及び体力テスト種目の知識と技術を習得させる。 ・健全な食育を推進する。	・部活動についてのアンケート項目を増やし、保護者と生徒の部活動に対する考えを把握する。 ・保健だよりを活用し、健康の保持増進に感心を持たせる。 ・委員会活動等を活用し、規則正しい生活についての啓発を行う。 ・保健体育の授業で毎時間補強運動、柔軟を実施し、体力の向上と怪我防止につなげる。 ・スポーツテスト、タイムトライアル実施時には、学年や性別に応じて基準となる記録を示し、意欲向上につなげる。 ・教師が熱中症に関する危機意識をもち、生徒と共有する。	・部活動についてのアンケート項目を増やす。 ・保護者及び生徒における保健だよりの認識を90.0%以上を維持する。 ・生徒アンケートにおいて、「早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活を心がける」の評価を90.0%以上にする。 ・スポーツテストの伊丹市の目標指数を昨年より更に上回るために体育の授業や課題活動を計画的に進める。 ・熱中症対策について、WBGT指数を参考にして、授業及び部活動で呼びかける。	B	・年度途中に部活動についてのアンケートを実施できなかったため、保護者と生徒の部活動に対する考えを把握できなかった。 ・保健だよりの認識について、保護者が94.7%、生徒が91.9%で、昨年度は下回っているものの、目標は達成できた。 ・生徒の「早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活を心がける」の割合が87.5%であったため、目標の90.0%には及ばなかったが、昨年度を2.0%上回っている。 ・全国体力調査において、種目によって昨年度より下がっていた。総合的には全国平均よりも上回った。 ・WBGT計を活用し、熱中症の危険性について、常に意識していた。必要に応じて活動内容を変更した。	・部活動がよりスムーズに地域に展開できるように、教職員自身が理解に努め、地域・保護者と連携して進めたい。 ・保健だよりの認識について、今後も継続して90%以上を維持していきたい。 ・「早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活を心がける」の割合を向上させるために、家庭と学校が協力して規則正しい生活ができるように、三者懇談等で促していく。 ・体力テストについて、体育の授業や課題活動を計画的に進め、今後も継続して向上できるように努めたい。 ・引き続きWBGT計を活用し、熱中症予防に努めていく。	・取り組みについて評価します。引き続き取り組みを継続し今後の成果を期待します。 ・今後部活動が地域展開する中で、体育の授業だけで体力向上することは難しく、地域と連携し生徒が生涯にわたって取り組める活動となる支援をお願いしたいです。 ・達成目標を超えており、評価できます。また、全国体力調査において、全国平均を上回っていることは評価できます。熱中症対策については、引き続き継続をお願いしたいです。 ・体力調査が全体的にどう推移しているのか知りたいです。

令和7年度(2025年度) 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標		自信と誇りを持ち自らの未来を切り拓く生徒の育成						
重点目標		(1)確かな学力の育成(自ら学ぶ力を高める) (2)生徒の主体的な成長・発達を「支える生徒指導」への転換 (3)授業力向上に向けた研究推進 (4)教育活動全体を通じた道徳教育の推進 (5)支え合い高め合う集団作りの推進 (6)特別支援教育の充実と合理的配慮の推進 (7)学校運営協議会やPTA、地域との連携に基づいた開かれた学校作りの推進						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
	教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	・キャリアパスポートなどを積極的に活用する。 ・個に応じた進路指導を充実させる。 ・SC,SSWなど関係機関と連携を図る。 ・不登校対策委員会の活性化を図る。 ・進路情報の発信を行う。	・キャリアパスポートを年に3回(年度当初、中間、年度末)記入させ、それを基に生徒への声かけを行う。必要に応じて、伊丹市キャリア学習ノートを活用する。 ・進路に関する情報を生徒や保護者に適宜、発信する。特に1学年から進路情報を数多く行い、保護者の不安を軽減させる。 ・学年に応じた進路学習を行うとともに、三者懇談や教育相談で個の特性を理解した進路指導を行う。 ・不登校や家庭環境などに問題を抱えている場合、生徒を積極的にSC・SSW・不登校支援員や関係機関につなぐ。 ・不登校対策委員会を月に1回行い、学校全体で情報共有をする。	・生徒アンケートにおいて、「学校で卒業後の進路について教えてもらっている」の評価を全体85.0%以上にし、1学年も70.0%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「学校で職業のことや働くことの大変さ、大切さについて教えてもらっている」の評価を全体90.0%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて、「先生に進路のことや学校全般にわたり相談することができる」の評価を80.0%以上にし、1学年も70.0%以上にする。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は進路についての情報を適切に発信している」の評価を全体85.0%以上にし、1学年も80.0%以上にする。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は職業のことや働くことについて、適切な指導を行っている」の評価を全体85.0%以上にし、1学年も80.0%以上にする。 ・保護者アンケートにおいて、「進路や学校全般にわたり、相談する機会や場が設けられている」の評価を全体85.0%以上にし、1学年も80.0%以上にする。	C	・生徒アンケートにおいて、「学校で卒業後の進路について教えてもらっている」の全体評価が79%、1年生の評価は60.5%であった。 ・生徒アンケートにおいて、「学校で職業のことや働くことの大変さ、大切さについて教えてもらっている」の全体評価が89.4%であった。 ・生徒アンケートにおいて、「先生に進路のことや学校全般にわたり相談することができる」の全体評価が75.8%、1学年の評価は66.8%であった。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は進路についての情報を適切に発信している」の全体評価が77.7%、1学年の評価は62.5%であった。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は職業のことや働くことについて、適切な指導を行っている」の全体評価が79.9%、1学年の評価は72.5%であった。 ・保護者アンケートにおいて、「進路や学校全般にわたり、相談する機会や場が設けられている」の全体評価が84.5%、1学年の評価は79.2%であった。 いずれも達成目標を下回っており、達成することができなかった。	・トライやる・ウィークの事前・事後学習を充実させ、働くことの大変さや大切さについて伝えていく。また、生徒が保護者の方にインタビューを行うなど、学校と家庭が連携してキャリア教育を行っていく。 ・学年通信や進路学習、進路説明会等を通して生徒や保護者、家庭に進路情報を発信していく。 ・担任は、業間休み等で積極的に関わり、生徒との関係を築くのと同時に、話しかけやすい環境をつくる。キャリアパスポートを記入させる際は、キャリア教育を意識した声かけをする。 ・年に2, 3回ある教育相談については、期間中だけでなく、それ以降も継続して適宜教育相談を行う意識を担任や学年職員がもつ。	・引き続き、取り組みに期待します。生徒の将来設計について、様々なジャンルの仕事について紹介することも必要であるとともに、経済の成り立ち、企業経営についても早い段階で教育することも必要と考えます。 ・大変なことです。継続して取り組んでほしいです。 ・達成目標の数値より10%であり、1年生から進路を意識した指導や情報提供を行うことが必要と思います。また、進学先だけではなく将来自己実現のためどんな道があるのか、キャリア教育の充実を期待します。 ・目標数値を下回っているが、目標数値の設定について、見直す必要があり、設定の意味を持つことで改善策も生まれると思われ。改善策の「生徒が保護者にインタビュー」はいい取り組みだと思います。 ・アンケートの数字のみにとらわれず、総合的にみてどう改善するかが大事だと思います。
	特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	・入学時の情報の引継ぎと、教育的ニーズに応じた指導、支援を継続させる。 ・個別の指導計画を作成し、職員間の共通理解を図る ・特別支援教育推進委員会の活性化を図る。	・小中連絡会の活用を通して、小学校との情報交換を密に行う。場合によっては事前に保護者と協議する。 ・サポートファイルを利用しながら、個別の指導計画を作成し、職員間の共通理解を図る。支援員との連携を深めるため、特別支援の各学年担当が積極的に啓発を行う。 ・特別支援教育推進委員会を週1回開催し、情報交換や実態把握に努め、担当でより良い支援方法について検討する。 ・特別支援教育に関する校内研修会を計画する。	・職員アンケートでは支援員との連携が87.0%以上がとれていると回答しているが、各学年担当の更なる啓発により、「よく当てはまる」の割合を40.0%に上げる。 ・サポートファイルの活用は87.0%程度なされている回答であった。引き続き、「まったくあてはまらない」の割合を0%でキープする。 ・特別支援教育に関する校内研修会を年に1回は実施する。	B	・支援員との連携についての質問では、各学年担当の更なる啓発により、「よく当てはまる」の割合を概ね40.0%に上げることができた。今後も支援員との連携を積極的に図る。 ・サポートファイルの活用は97.0%程度なされている回答であり、割合を上げることができた。また、「まったくあてはまらない」の割合は0%でキープできた。 ・スクールカウンセラー志水先生による発達検査の研修や、外部講師を招いたUDフォントの研修など、年に2回校内研修会を実施できた。	支援員1人で生徒を見るには、対象生徒が多い現状がある。また、教科によって支援員が入る教科と入らない教科がある。可能であれば、支援員増員が望ましい。	・対象生徒が多いと支援員の負担が増加することは容易に想像できる。支援員の増加については、西中学校運営協議会としても要望していくべきだと思います。 ・達成目標について、全て上回っており、きめ細やかな対応がされていると評価できます。西中PTAでも同じ内容について取り組んでいるため、PTA経由で学校と保護者との情報共有等ができれば、より活性化できると思われ。学校運営協議会からも増員を要望できればと思います。

令和7年度(2025年度) 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標		自信と誇りを持ち自らの未来を切り拓く生徒の育成						
重点目標		(1)確かな学力の育成(自ら学ぶ力を高める) (2)生徒の主体的な成長・発達を「支える生徒指導」への転換 (3)授業力向上に向けた研究推進 (4)教育活動全体を通じた道徳教育の推進 (5)支え合い高め合う集団作りの推進 (6)特別支援教育の充実と合理的配慮の推進 (7)学校運営協議会やPTA、地域との連携に基づいた開かれた学校作りの推進						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
	教職員の資質向上 ①研修等の充実	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な研修参加による資質向上を目指す。 生徒の実態を踏まえ授業改善をはかる。 主体的に考え、課題解決を図る実践的な学習活動などを実施する。 ねらいと評価の一致を徹底し、評価をわかりやすく行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案授業をおこない、教科内で連携をとったり、学年で空きコマを用いて授業を参観する。 参観シート等を活用し、授業改善につなげる。 本時の目標・本時の振り返りを必ず実践し、生徒が授業の見通しや振り返りができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートにおいて、「先生はわかりやすくするために教え方を工夫している」について、よくあてはまるを60%以上にする。 生徒アンケートにおいて、「先生は、シラバスを活用するなど、事前に評価の仕方を説明し、学習の成果を適切に評価している」の評価を90%以上で維持し、さらなる向上を図る。 保護者アンケートにおいて、「先生は学習の成果を適切に評価している」の評価を90%以上に回復するように努める。 教師アンケートにおいて、「校内授業研究会など研修に積極的に参加するなど、授業方法について検討している」の評価を90%以上を目指す。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートにおいて、「先生はわかりやすくするために教え方を工夫している」について、よくあてはまると回答した生徒は1,2年生が60%を超えることができず、3年生は超えることができた。 生徒アンケートにおいて、「先生は、シラバスを活用するなど、事前に評価の仕方を説明し、学習の成果を適切に評価している」の評価は87.9%と、90%以上で維持できず、前年度より約5%減少した。 保護者アンケートにおいて、「先生は学習の成果を適切に評価している」の評価は88.2%と、前年度より微増だった。 教師アンケートにおいて、「校内授業研究会など研修に積極的に参加するなど、授業方法について検討している」の評価が88.2%で、前年度より約5%減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> 1,2年生では、生徒の個々の状況に応じたワークシート作成や、課題設定に努め、個々の授業に対する「手応え」や「達成感」が得られるようにしていく。 前年から今年にかけて、教科書が変わり、十分な教材研究を経たシラバス作成ができていない可能性がある。そのため、年度当初に教材研究に充てる時間を確保し、生徒も教師も見通しを持てるようにする。 何ができて、何ができていないのかなどのフィードバックをする。また、学期末の評価をどのよう付けているかシラバスなどを通じて授業内で指導する。 研修会に拘らず、日常の授業の中で、教科内外問わず授業を見学できる雰囲気を作ることによって、授業方法の改善などにつなげていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じブロックの校内研究会にも参加し合える仕組みを作りたい。 今年度先生方の授業を拝見していないため、授業状況についての評価はできないが、先生方が研修会等を開催し自己研鑽している状況は感じられる。教師アンケートで研修会への参加について前年度より減少している点について、今後に期待したいです。 教える内容の多さや進路を意識した授業が求められる中、「わかりやすくするための工夫」という観点で評価する難しさを感じます。わかる授業→授業が楽しいとの、主体的な学びにつながるため、研修の充実を期待します。 目標数値を上回っていないが、学校の対応について評価できます。アンケート結果をもとに、目標数値の見直しも必用に感じます。 オープンスクール時に保護者に感想メモ等を書いてもらってはどうかと思います。
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な情報発信や意見交換を行うなど、CS委員やPTA等と連携を図る。 オープンスクールやホームページ等を通して、保護者や地域に教育活動を公開するなど、開かれた学校づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校通信、学年通信の内容をより魅力的なものにし、発行を積極的に行う。 ホームページで生徒の様子がリアルにわかるように更新をこまめに行う。 緊急時の連絡をホームページと西中PTA緊急連絡メールを使って発信する。 オープンスクール等でPTAや地域の方々と教職員をお互いに顔を合わせる機会を増やし、情報を密に交流する。 保護者アンケートに「学びポケットを確認している」という項目を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信を継続し、保護者アンケートにおいて、「学校通信や学年通信などをよく読んでいる」の評価を90.0%以上にする。 保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」の評価を90.0%以上にする。 オープンスクールで地域の方等、幅広く参加を呼びかける。 「学びポケットを確認している」の評価を90%以上にする。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートにおいて、「学校通信や学年通信などをよく読んでいる」の評価が87.0%、「学校は保護者の願いに応えている」の評価が88.1%と概ね達成できた。 学びポケットの利用率向上を目指して働きかけを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 学びポケットの利用率を確認し、改善していくため、保護者アンケートにおいて、「学びポケットを確認している」の項目を追加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 西中学校の情報発信については、一地域住民という立場で、過去より少なくなったように感じます。更なる活性化を期待します。先生方は子どもたちや地域にとって、ある意味有名人である。ワークライフバランスを取りながら、地域との関わりを期待します。 コミュニティ・スクール等の充実のため、生徒との意見交換(他校で実施)等をしてみてはどうか。PTAやコミュニティ・スクール等の組織体制を、職員だけでなく、保護者や生徒に発信する場が必要と思います。 HPの更新がよくされている。
	安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各教科や体験活動等を通して災害から生命を守るため、主体的に行動する力を育成する。 感染症予防のための指導を徹底する。 地域、警察、関係機関と連携した学校安全の取り組みを充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中で災害について学ぶ機会を作り、避難訓練を通して危機意識を育て、主体的で深い学びを取り入れる。 学期毎の登校指導を実施することで登校時の生徒の安全を確保している。 学校日より、学年だよりの発行や、ホームページを通して避難訓練の様子を知らせる。 月に1回の安全点検を確実にし、施設等の整備維持保全に努めている。 全校集会や各学年、クラスで安全な登下校を心がけるように指導する。 危機対応に迅速に対応できるように情報共有の徹底や校内の内線を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの回答結果は90.0%以上を達成しているので、引き続き90.0%以上にし、3の「あまりあてはまらない」のパーセンテージを減らしていくことを目指す。 保護者アンケートにおいて、90.0%を下回っている項目の評価を90.0%以上を目指す。 教師アンケートにおいて、「危機対応が必要になったとき、組織的かつ迅速に対応できる体制が整っている」の評価を90.0%以上にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの回答結果は4項目中3項目が90%以上を達成したが、項目21の割合が86%にとどまった。 保護者アンケートの回答結果は6項目中2項目が90%を下回っていた。 教師アンケートの回答結果は全ての項目において90%以上であった。 	<ul style="list-style-type: none"> あまりあてはまらない、全くあてはまらないと回答した割合を減らしていくことを目指す。 防災意識を高める活動について引き続き学校だよりやまなびポケット、HPを利用して活動していることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みについて評価します。引き続き取り組みに期待します。 生徒アンケートで、概ね各項目で目標数値を上回っていることは評価できます。防災意識の向上は、より実災害を想定した内容を盛り込んだ方が良いと感じます。 保護者に取り組みの周知徹底が必用だと思います。 HP更新時に学びポケットで周知すると見る機会が増えると思います。

令和7年度(2025年度) 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標		自信と誇りを持ち自らの未来を切り拓く生徒の育成						
重点目標		(1)確かな学力の育成(自ら学ぶ力を高める) (2)生徒の主体的な成長・発達を「支える生徒指導」への転換 (3)授業力向上に向けた研究推進 (4)教育活動全体を通じた道徳教育の推進 (5)支え合い高め合う集団作りの推進 (6)特別支援教育の充実と合理的配慮の推進 (7)学校運営協議会やPTA、地域との連携に基づいた開かれた学校作りの推進						
主要 施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
<p>学校関係者評価総括 達成目標の結果より、学校の対応は十分に評価できるが、自己評価が低いように感じられる。学校の対応や実施状況を保護者に発信し、連携体制の強化を期待します。</p>								
<p>次年度に向けた重点的な改善点 より具体的な達成目標を設定し、全教員が目標設定について意識を高めて取り組み、次年度に繋げる。 点目標達成に向けて、保護者や地域との連携を図るとともに、開かれた学校作りに努める。</p>								

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った

重